

2012年 社長(古関 信)年頭挨拶について

明けましておめでとうございます。本日行われた、当社社長、古関 信の当社社員に対する年頭挨拶の要旨を、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 2011年を振り返って

世界中でさまざまな出来事があった年であった。日本では、東日本大震災が発生し、多くの方が尊い生命や住まいを失い、今なお避難生活を余儀なくされている。被災者の皆様には、改めてお見舞いを申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

世界では、中東および北アフリカでの政変、ユーロ危機の深刻化などによる世界経済の停滞があり、また、日本企業も円高に苦しんだ。

これらの出来事は、石油・天然ガス開発業界に身を置く我々にとって、決して無縁のものではない。震災は、化石燃料の重要性が改めて認識される契機となり、また、中東および北アフリカの政情不安は原油価格に大きな影響を与えた。円高は、利益の圧迫要因となる一方、海外投資の追い風要因にもなっている。

やや減速しているとはいえ、途上国の経済成長が当面続くと思われることを考えると、今後、資源獲得競争はますます激しくなると想定される。この厳しい競争に勝ち抜き、当社が持続的な成長を達成するためには、まず、事業機会を逃さぬよう、絶えずアンテナを磨いて情報入手に努めること。リスクを見極めた上で、好機と判断した場合は、積極的に挑戦する姿勢を維持すること。そして、何よりも行動することが必須である。

去年は、皆さんが積極的にさまざまな案件に取り組んだ結果、カタールでの探鉱鉱区取得をはじめ、各地域で有望な案件が生まれた年であった。なかには、最終的には日の目を見なかったものの、もう一歩というところまで迫った案件もあった。これらについても、果敢にチャレンジしたという事実は、着実に皆さんの、そして会社の財産となり、将来の成功に結びつくものと信じている。

2. 新年を迎えて

今年は、中期経営計画の最終年にあたるので、まずはこの計画に掲げる目標の達成に向け努力して欲しい。一方で、石油・天然ガス開発はリードタイムの長い事業である。目先の目標だけに囚われることなく、当社の中期事業方針である「既存プロジェクトの価値最大化」と「成長の基盤となる探鉱事業の推進」を社員全員が共有して業務に当たれば、必然的に将来の持続的成長・発展に繋がる。

その上で、将来の持続的成長・発展のためには、現状に甘んじて立ち止まることなく、リスク管理を徹底しながらも常にチャレンジし続けることが不可欠である。このためには技術面のチャレンジが必要であることは言うまでもないが、組織体制や仕事の進め方、従業員の意識などの改革も必要である。この点、我々経営陣も、先頭に立って旗を振っていく。

当社の将来の成長の原動力となるのは、社員の高い意識と向上心、そしてそれに基づく行動力である。大事なものは、目標に向かって現状を切り開いていく自らの強い意志である。一人一人が自らの目標を再確認し、具体的に行動することが、今、求められている。我々の前には課題が山積しているが、一人一人が強い意志を持って乗り越えていこう。

以上